

チュービンゲン大学短期留学報告書

15D91----- 宇津木春菜

諸経費のまとめ（私の場合）

授業料・・・€620（約 81,000 円/4 週間）

寮費・・・€360～390（約 47,000 円～51,000 円/4 週間）

中大指定海外旅行保険・・・約 13,000 円(旅行期間によって異なる)

計 約 145,000 円

航空券 102,570 円（ベトナム航空利用）

収入

たくみ奨学金 80,000 円（GPA による）

JASSO 80,000 円（※1 2017 年度実績）

自己負担金（約）200,000 円

※1 奨学金は、年度によって異なります。

～出発から入寮まで～

2017年8月2日から1カ月間、ドイツにあるテュービンゲン大学に短期留学をしました。中央大学からは計17名、このうち2名は私を含めて理工学部の学生でした。私がドイツに1カ月間短期留学をした理由は、第2外国語としてとったドイツ語を話せるようになりたかったから、そして、ドイツの習慣や文化を体感したかったためです。留学前は、毎週ドイツ語の授業をとっていたものの、実際には自分の専門分野の実験や課題に追われる毎日で、なかなかドイツ語を勉強する時間が取れず、とても不安でした。日本を発つ2日前に、やっと全てのレポートを出し終え、晴れてフランクフルト国際空港行きの飛行機に乗ることが出来ました。

無事空港に到着し、荷物を受け取って歩きはじめたところ、スーツケースの手すりに違和感を覚えました。気になって手すりを引いてみると、手すりが完全に取れてしまい、ねじもどこかに落としてしまいました。手すりがいない状態でこれから1カ月どうしようか。こんな重い荷物をずっと引きずりまわすことが出来るのか。一瞬にして絶望感がよぎりました。まずは、落ち着いて、空港の職員に相談してみよう。やっとの思いで、スーツケースを修理してもらおう手続きをすることが出来ました。ドイツ到着後すぐに、誰も助けてくれる人がいない状態で自分から行動したこと、こんな些細に思えるようなことであっても、私は成長することが出来たと感じました。私は、プログラムの開始する2日ほど前にドイツに到着し、シュトゥットガルトに宿泊していました。プログラム開始日は、テュービンゲン駅に集合だったため、当日はシュトゥットガルト駅から電車を利用していくことにしました。プログラム当日、前日に購入しておいた電車のチケットに書かれているホームに行き、電車を待っていました。ところが、時間になっても電車が来ません。予定時刻を10分過ぎてもまだ来ません。とても嫌な予感がして、駅構内の職員に確認。すると、その電車はホームが変わって、既に発車してしまったとか。身の毛がよだつ思いでした。すぐさま次の電車を確認し、なんとか集合時間に間に合う電車に乗ることが出来ました。車内では、トラブル続きで先が思いやられるなど思いながらも、これで目的地のテュービン

ゲンに行けるといいう安心感や期待で胸が膨らんでいました。

テュービンゲン駅について、他の中央大学生に会い、バスで大学へと向かいました。大学につくと、大学の規則であったり、寮の規則であったり、寮で使うシーツのお金を払ったりと、ドタバタと流れ作業のように次から次へと、たくさんの書類をもらいました。車で寮へ向かい、次の日のテストを忘れずに受験しろと職員から念押しをされて、解散をし



【テュービンゲン駅近くのネッカー川】

した。一人暮らしは初めてであり、寮の部屋に着いた時は、不安がよぎりましたが、その日は同じ寮に滞在することになった中央大学の学生と一緒に、次の日から利用するバスの時刻表の確認をして、近くにあるスーパーで冷凍のピザを買って、夜ご飯としました。中央大学の学生は様々な寮に散らばっていたため、同じ寮になった中央大学の学生は私を含めて4人でした。初日の夜は、最悪でした。寮の電気は日本の自分の部屋の電気と比べて暗い上に、夜遅くに激しい雷雨となり、非常に寝付くのに苦労しました。

～留学プログラムの始まり～

朝を迎え、前日に買ったパンを食べて大学に行くバスに乗りました。大学に到着し、間もなくクラス分けテストが開始されました。問題を見て、愕然としました。全然分からない…。ほとんど解けずに、面接会場へ。面接官が言っていることは何とか分かるけれど、自分が言いたいことを何て言えばよいのか分からない…。午後は参加者希望制で、グループになってテュービンゲンの町を、クイズを解きながら歩き回るイベントに参加しました。テュービンゲンの朝はとても寒いけれど、昼間は熱中症になるくらい暑くなります。汗をだくだくかきながら、若干くらくらしながらも、同じグループになったメンバーと、片言のドイツ語、そして英語を話しながら問題を解いていきました。町歩きの途中、同じグループのメンバーが蜂に刺されるというアクシデントが発生しました。他のメンバーと相談し、何とか彼女を薬局に連れていき、薬を塗ってもらうことができました。夜は、歓迎パーティーがあり、そこでクラス分けの発表がありました。予想通り、一番下のクラスでした。このクラスでドイツ語を基礎から見直して、たくさん成長してやる！と決心した夜となりました。

～現地での生活①（授業）～

テュービンゲンに到着してから3日目。とうとう授業が始まりました。それぞれのクラスには担任以外に、テュービンゲン大学の学生であるチューターがいます。午前中は主にドイツ語の文法を確認し、グループワークをしながらその知識を習得していくような形でした。私のクラスの授業は非常に会話練習が多く、ドイツ語を話す上で大切な表現をたくさん学ぶことが出来ました。また、担任の先生は、事あるごとに「Habt Ihr Fragen? (質問はありますか?)」



【クラス内ピクニックの様子】

「Wunderbar! (素晴らしい!)」などと言っていたため、授業中はとても質問のしやすい雰囲気があり、勉強のモチベーションも非常に上がりました。さらに、毎日の授業で、何度

も何度も練習を積み重ねていくことによって、自然とドイツ語の表現が頭に浮かぶようになりました。午後は、チューターが担当している Sprachtutorium があり、ドイツ語の音楽を聴いたり、遠足に行く場所についてみんなで調べたり、大学にいる学生にインタビューをしいたり、物語をグループでつくったりしました。午前中のドイツ語の授業とはまた違った観点から、ドイツ語を学ぶことが出来たことは非常に有意義でした。

～現地での生活②（昼食、寮での過ごし方）～

昼休みは、初日は Mensa(学食)でとりました。Mensa での昼食は、量は多くて学生向けだけれど、味はいまひとつ、という感じでした。テュービンゲン大学には学食以外にカフェもあるため、次の日からはカフェで昼食をとりました。偶に、同じクラスのメンバーと



【Mensa での昼食】

ケバブを食べに行ったり、友達になった中国人や台湾人と一緒に、中華料理を食べに行ったりしました。また、プログラム初日は学食やカフェで使えるメンザカードを受けとることができます。このメンザカードにお金をチャージして、毎日利用していました。メンザカードは昼食時だけではなく、洗濯機を使用の際にも利用することが出来たため、とても便利でした。夜は、多くの中央大学の学生は寮で料理をしていたそうでしたが、私はお店で食べたり、スーパーで買ったス

ープやパンを食べたりして夕食としていました。何故ならば、今まで自炊をしてこなかったという理由もありますが、1番の理由は毎日のように放課後に行われていたイベントに参加していて、帰りが 22:00 頃となるのが普通であったためです。たまに早く寮に戻れた時は、パスタを作って食べました。寮でご飯を食べていると、寮に住んでいる現地のドイツ人とぼったり台所で居合わせ、授業で学んだ表現を用いてドイツ語で会話することを楽しみ、友達になることも出来ました。

私の寮の部屋には、トイレとシャワーがついていました。部屋自体も1人が暮らすにはちょうど良い広さで、勉強机、ベッド、棚があり、快適に過ごすことが出来ました。台所は共同で、洗濯機は地下にありました。台所にある冷蔵庫は、部屋ごとに使う冷蔵庫が異なり、私は一度自分が買った牛乳をだれかに使われてしまったことがありました。また、洗濯機に関しては、1回使用するのに 1.5 ユーロほどかかり、私は友達のお洋服と一緒に洗濯をしていました。

～様々なイベント①（ボルダリング、コーラス）～



【ハイキングの様子】

た人が参加できます。特に、ボルダリングは人気でした。最初の週は惜しくも名前を書く



【コーラスの先生と一緒に】

電を逃していました。周りが暗い中、仲間と歩いて違うバス停を探し、乗り換えをしながら何とか寮にもどったのが 23:00 過ぎということも、今となっては楽しい思い出の 1 つとなっています。

私は、前述したすべてのイベントに参加しました。特に、コーラスは毎週参加しました。ドイツ語で指導を受けながら、様々な国籍をもった学生たちと一緒にドイツ語の歌を歌いました。みんなが 1 つになった気がして、とても素敵な時間を過ごすことができました。練習した曲は、プログラム終了間近になって行われる大きなイベントで、みんなに披露をしました。

テュービンゲン大学のプログラムは、非常にイベントが充実しています。毎週のように放課後行われていたイベントは、ボルダリング、コーラス、ドイツ語映画の鑑賞会、サルサ、筆記練習などがありました。これらのイベントは、参加希望者がすべて参加できるものもあれば、参加人数の枠が決まっているものもあります。参加人数が決まっているものに関しては、授業の休み時間中、掲示板に貼られている名簿に、早い者勝ちで名前を書くことができた人が参加できます。特に、ボルダリングは人気でした。最初の週は惜しくも名前を書くことが出来なかったため、次週は休み時間になって全速力で掲示板に向かったところ、名前を記入することが出来ました。ボルダリングをする場所は外にあり、ちょうどその日は雨が降ったため、凍えるようにしながらボルダリングをしました。身体は、あざだらけ、次の日は全身が筋肉痛になりました。ボルダリングを体験した日は、終了時刻は 21:30 でした。ボルダリングのある施設のすぐ近くのバス停にいて、帰りの時刻を調べたところ、なんと終

～様々なイベント②（ハイキング、料理教室）～

他にも、単発のイベントは豊富にありました。みんなでハイキングに行くイベントや、水泳教室、ヨガ教室、料理教室、ドイツ語と他の言語を比較するイベント、音楽の夕べ、日本の夕べなどです。プログラムが始まった最初の週は、ハイキングに参加しました。私自身普段はハイキングをしないのですが、物は試しと思い、山の中を歩きながらたくさんの人に話しかけてみることにしました。英語やドイツ語が混ざりながらも、知っている単語をつなぎ合わせながらなんとか会話をすることができ、このイベントを通して他クラスの友達をたくさん作ることができました。料理教室では、野菜係、デザート係、スープ係などと分担を決めて、みんなで力を合わせて素敵なドイツ料理を作りました。

～様々なイベント③（音楽の夕べ、日本の夕べ）～

他に参加したイベントで印象に残ったものは音楽の夕べです。最初はみんなで Country Roads や Hey Jude などの有名な曲を歌い、次にそれぞれの国籍の人たちがグループを作って、各国の有名な曲を披露しました。この留学プログラムに参加している国は 20 か国ほどあり、音楽の夕べに参加した学生も、アメリカ、ロシア、トルコ、フランス、イタリア、イスラエル、中国、韓国、南アフリカ共和国など、本当に様々な国の学生がいました。私たちは「世界に一つだけの花」を歌いました。歌い方や振り付けなどから、それぞれの国の国民性も感じ、とても興味深くて幸せな時間を過ごしました。日本の夕べは、中央大学生が企画するイベントです。主に多摩キャンパスの学生が事前に日本で準備をしてくれていたのですが、当日はかき氷を作ったり、割りばしを使って射的をしたり、書道をしたり、折り紙をつくったりしました。イベントの最後には、みんなで盆踊りもしました。

～クラス内でのイベント～

クラス内でのイベントも充実しています。他のクラスと合同でドイツの国境近くのボーデン湖に遠足に行ったり、ボイレンと呼ばれる歴史的な建物がある場所に行ったり、チョコレート工場に行ったりしました。プログラム最終日には、ネッカー川をボートで周遊しました。クラスで仲の良くなった友だちと一緒に出掛けたり、ドイツ語会話を楽しんだりしたことは今でも鮮明に覚えている、素敵な思い出です。



【ネッカー川をボートで周遊】

～休日の過ごし方～

休日の過ごし方は、人それぞれでした。私はウルムと呼ばれる町に行ったり、ホーエンツォレルン城に行ったりしました。ホーエンツォレルン城の最寄り駅までは、定期券で行くことができます。バスの定期券で、電車もある一定の範囲までであれば利用することができたのは、とても便利でした。また、ドイツは日曜日、ほとんどすべてのお店が閉まっています。そのため、土曜日のうちに食料品等必要になるものを買ってそろえておき、日曜日は図書館で課題をしたり、テュービンゲンの町を散歩したりしました。



【プログラム最終日】

さくなっていくのを、みんなで見ていました。それはまるで、多様な国籍をもった私たちが、一緒になってこれから先の未来に向かっていくことを示しているような気がしてなりませんでした。

～留学プログラムの終了～

留学プログラムの最終日は、あっという間にやってきました。この日、プログラム参加者に1人1人風船が渡され、紐の先についた紙には自分の名前と国籍を記入しました。大学から列になって徒歩10分ほど歩き、周りを見渡せる広い草原のような場所に到着しました。みんなで円を描くようにして、丸くなりました。「3、2、1！」風船が一斉に空へと舞い上がりました。様々な色をした風船がはるか彼方へと向かい、どんどん視界から小さくなっていくのを、みんなで見ていました。それはまるで、多様な国籍をもった私たちが、一緒になってこれから先の未来に向かっていくことを示しているような気がしてなりませんでした。

～プログラムを終えて～

留学を終えた今、振り返ってみて思うことは、最高の1カ月をテュービンゲンで過ごしたということです。語学力が向上したことはもちろん、毎日が濃く、楽しく、夜は眠りにつくことすらもったいないと感じる生活が出来たという経験は、確実に自分への自信につながりました。ドイツで経験した1つ1つのことは、今でも私の頭の中にはっきりと残っています。現地で知り合った友だちと夜遅くまで語り合ったこと、寮に住んでいる学生に助けてもらったこと、図書館に夜遅くまで残



【友達になったブルキナファソ人と】

って勉強をしたこと、担任の先生やチューターと楽しく会話をしたこと…。それぞれの経験は、常に刺激に満ち溢れており、新鮮でした。

この留学経験を今後、自分の未来にどう繋げていくか。まずは、今まで以上にドイツ語の勉強に取り組みたいと思っています。留学中、周りには自分よりもはるかにドイツ語を話せる人が多くいました。さらに、彼らと会話をしている中で、度々ドイツ語で伝えたいことが伝えられず、英語を使って逃げてしまう自分がいました。ドイツ滞在中に感じた悔しさやもどかしさをばねに、彼らに再び会う時には、自分のドイツ語能力をずっと上げて、不自由なく会話が出来ようになりたいです。次に挙げられることは、ドイツで感じた自分の気持ちに素直になるということです。ドイツで生活をして様々な経験をしていくうちに、もっと外に出て世界を知りたい、と強く思うようになりました。私自身、今は大学3年生で、自分の将来について具体的に考えなければならない時期に入っています。こ



【ネッカー川 橋の上から】

のような状況の中で、自分が心の底で思っていることを忘れることなく、納得のいく選択ができればと思っています。

最後に、この留学をするきっかけともなったドイツ語の授業で、教鞭をとってくださった早坂先生には大変感謝しております。留学が決まってからも、様々な相談にのってくださったり、ドイツ語の文章の添削をしてくださったりと、大変お世話になりました。本当に、ありがとうございました。